



これからの

広域的な

まちづくり

西胆振の将来像

室蘭市を含む西胆振地域には、農業、水産業、観光、製造業など、それぞれのまちの特性があります。それらの特性を活かし、連携、協力することで、自分のまちに少ないものを補い、地域としての魅力を高めるための広域的なまちづくりについてお知らせします。

西胆振地域の現状と課題

西胆振地域（室蘭市・登別市・伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町）を一つの生活圏としてみるとさまざまな特徴や強みがある反面、課題もあります。

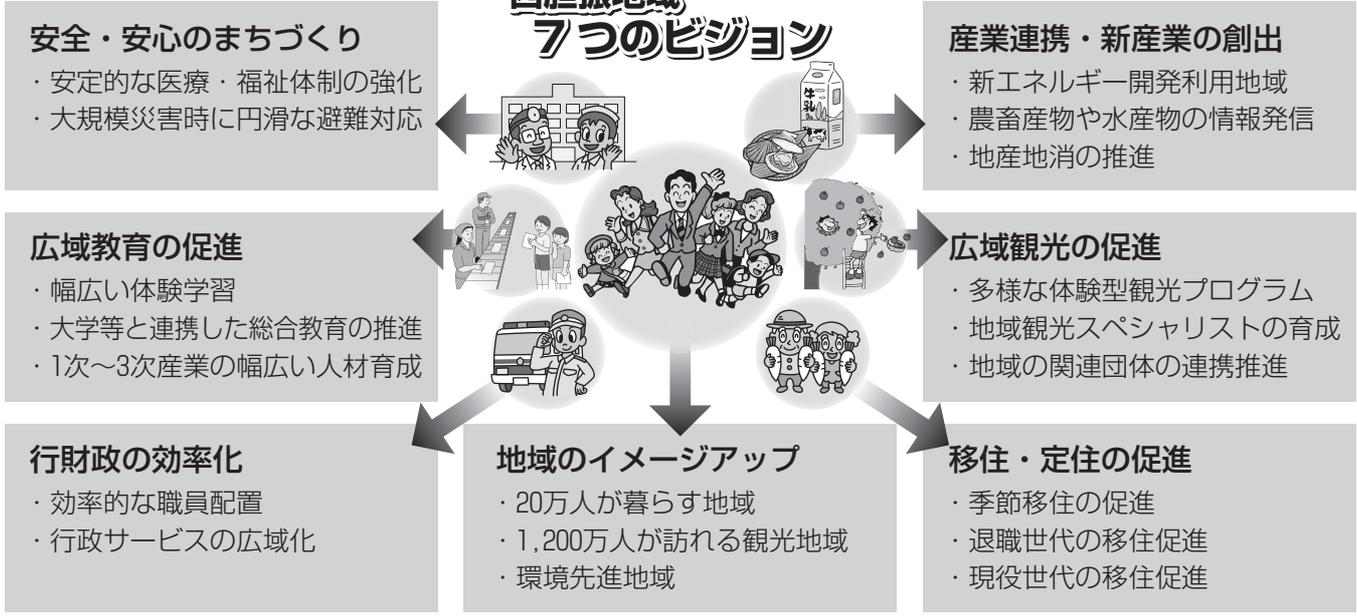
人口 西胆振地域の人口は、合わせると20万5千人。市で数えると道内で4番目の人口規模ですが、平成47年には13万9千人まで減少するとの分析結果や、さらなる高齢化の進行も予想されており、若年層の流出の抑制や少子高齢化対策、移住促進などが必要です。

産業 多様な農水産物が生産されており、ホタテやクロソイなどのブランド化が進んでいます。また、鉄鋼業を中心とした製造品出荷額、年間1千200万人の観光入り込み客数で、ともに全道で2番目となっていますが、今後は農商工連携、地産地消などの取り組みが求められています。

医療 医療では、大規模病院が複数存在し、医師数も全道平均値ではありますが、不足している地域や診療科もあります。今後の高齢化の進行による需要の増加が見込まれており、小児救急や周産期医療の体制の維持、医師不足地域での医療体制の確保などが必要です。

地域づくりビジョンを策定 これらの現状を踏まえ、地域の強みを活かし、まちづくりの可能性や、将来のまちの姿を考えるための資料として、今年の3月に6市町が共同で「西胆振地域づくりビジョン」を策定し、7つのビジョンを示しました。

西胆振地域 7つのビジョン



「定住自立圏構想」という新たな連携を検討

西胆振6市町には、それぞれの強みがあり、それらを相互に活用しながら住み続けられるまちづくりを進める必要があります。

その手法については現在も共同で廃棄物処理や共同電算などを行っている広域連合のほか、市町村合併も選択肢の一つとして検討されてきました。しかし、合併間もない地域や合併を選択しなかった地域もあり、当面、6市町の合併は難しい状況にあります。

一方、昨年12月に、「定住自立圏構想」という新たな連携のめざす総務省より提唱され、現在、西胆振地域では、7つのビジョンの実現化のためにこの考えを取り入れた地域づくりを検討しています。

「定住自立圏構想」の概要

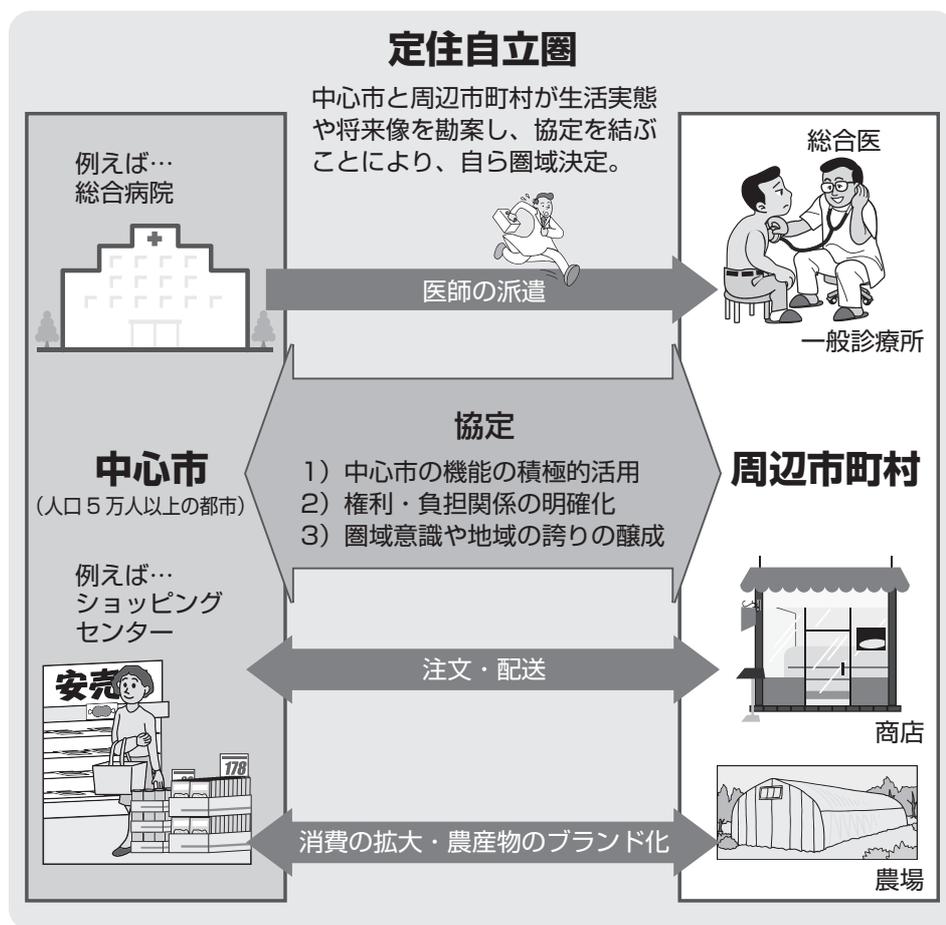
定住自立圏構想とは、圏域の核となる人口5万人程度以上の中心市が周辺市町村と協定を結び、それぞれの役割分担や連携を図りながら、圏域全体の暮らしに必要な都市機能を確保する方法です。

西胆振地域では室蘭市が中心市となり、医療や福祉、産業、観光などの分野で、周辺市町と協定を結び連携を進めることが考えられます。

定住自立圏構想の検討会議を設置

定住自立圏構想について国の制度などを活用し、どのように連携していくのかを具体的に検討するために、6市町による「西胆振地域定住自立圏構想検討会議」を6月に設置しました。

定住自立圏のイメージ



今年の10月末には、これからの連携事業の可能性について第1次素案を作成し、今年度中には、中心市である室蘭市が定住自立圏形成の進め方を判断し、各市町と協議しながら具体的な連携事業などを検討していく予定です。

これらの動きについては随時広報紙などでお知らせしていきます。

《広域連携についての詳細》企画課 ☎252181

<http://www.city.muroran.lg.jp/main/org2200/kouiki.html>